

## 神様は残酷？

### [聖書]出エジプト記 6章 28節～7章 7節

主がエジプトの国でモーセに語られたとき、主はモーセに仰せになった。「わたしは主である。わたしがあなたに語ることをすべて、エジプトの王ファラオに語りなさい。」しかし、モーセは主に言った。「御覧のとおり、わたしは唇に割礼のない者です。どうしてファラオがわたしの言うことを聞き入れましょうか。」主はモーセに言われた。「見よ、わたしは、あなたをファラオに対しては神の代わりとし、あなたの兄アロンはあなたの預言者となる。わたしが命じるすべてのことをあなたが語れば、あなたの兄アロンが、イスラエルの人々を国から去らせるよう、ファラオに語るであろう。しかし、わたしはファラオの心をかたくなにするので、わたしがエジプトの国でしるしや奇跡を繰り返したとしても、ファラオはあなたたちの言うことを聞かない。わたしはエジプトに手を下し、大いなる審判によって、わたしの部隊、わたしの民イスラエルの人々をエジプトの国から導き出す。わたしがエジプトに対して手を伸ばし、イスラエルの人々をその中から導き出すとき、エジプト人は、わたしが主であることを知るようになる。」モーセとアロンは、主が命じられたとおりに行った。ファラオに語ったとき、モーセは八十歳、アロンは八十三歳であった。

### [1] 出エジプト記は長い時間軸を持つ

出エジプト記はもともと「脱出」という意味を持っています。あの屈強なモーセ役を演じたチャールストン・ヘストン主演の映画『十戒』を思い起こす方は多いと思います。海が真っ二つに割れて、その中をイスラエルの民たちが、追って捕らえようとするエジプト軍からギリギリの所で脱出する、逃れて行くシーンというのは映画史に残るものですね。

しかし、出エジプト記は改めて読むと、そこに至るまでの過程や、またその後の歩みの困難さといった、長い時間軸を描写しているものです。言い換えれば、確かに大きな奇跡は起こったのですけれども、それで全てが終わり、ハッピーエンドで幕が降りるという訳ではないという歴史も描かれているのです。

出エジプト記は、私たちの人生そのものではないでしょうか。そんな気が致します。神様を信じればそれでその後の人生は何事もなくスッキリということはないかなあ無いです。そして、またこれは単に個人の物語というよりも「共同体」のある捕われからの解放の物語が語られているようにも思いました。言い換えれば、

私たちの信仰共同体＝「教会」のその解放の物語として読んでいいと思うのです。

## [2] 神様は何故、こんなに辛い中を通されるのか

さて、出エジプト記を読んでいて、私たちは素朴に思うことがあるのではないのでしょうか。何故、こんなに辛い人生を通過しなければならないのか、神様はこの状況をご存じであるのなら、もう直ちに手を下されて、酷く圧迫する者たちをやっつけて、このイスラエルの民を救ってあげればよいのに、一体どれだけの時間をかけるのか。本当にじれったい、神様は意地悪なのではないか、残酷なのではないかと思ってしまうこともあると思います。

イスラエルの民というのは、この時、全く差別と虐待の中にありました。独裁のエジプト王の下で人間扱いされていない状態でした。それは5章などにはっきりと記されています。神様からの命(めい)を受けてモーセとその兄アロンはエジプト王ファラオにと訴えます。「私たちの民を去らせ、荒れ野で主を礼拝させてほしい」。すると、王は却って逆上して、そんなことを言うのは怠け者だからだと、下役に命じてレンガを作る量を増やし、そしてその作業が遅れると体を打ったと言うのです。正に奴隷です。

普通に考えたらこれは辻褄が合わない話だと思うのです。神様はモーセを神様のお働きが進むために遣わされたのです。3:10にははっきりとモーセを派遣する言葉が書かれています。「あなたをファラオのもとに遣わす」と。しかし、ファラオは簡単に「はい、どうぞ」とは言いません。きっとモーセは神様のみこころが分からなくて苦しんだと思います。「あなたがそう言ったのに」と文句も言いたくなっただけでしょう。…けれども、ここの所が大事な所なのかなとも思うのです。実は神様は、4章の所でモーセに杖を与え、その杖で不思議な業を行う権限を与えましたけれども、神様はこうも言うのです。―「全ての奇跡を、心してファラオの前で行うがよい。しかし、わたしが彼の心をかたくなにするので、王は民を去らせないであろう」(4:21)と。今日の7章でもそうでした。「わたしはファラオの心をかたくなにする」(7:3)―これはどういうことでしょうか。神様は意地悪で残酷なお方なののでしょうか?―私は、二つの意味があるのではないかと思います。一つは、救いをもたらす(「伝道」と言い換えても良いでしょう)というのは、楽なことでないのだ。そこで忍耐を学びなさい、ということだと思います。そして、もう一つは、そのあなたの労苦、それを私は知っているよ、ということが言われているのではないのでしょうか。私は、信仰者の生活、人生というのは、こういうものなのかなと思ったのです。

私たちは、つい信仰者というのは、いわば「ノアの箱舟」に乗せて頂いた救わ

れた者で、もう安全地帯にいる者なので、ある意味この世界と距離を持って生きればよいと思ってしまいがちです。しかし、それはどこか間違っているように思えるのです。それは、今回の新型コロナウイルスのことを考えてもそう感じます。

### [3] エジプト人も神を知るようになる

この新型コロナウイルスは、現代の**世界的な試練**ですよ。その危機に晒されている人に国境、宗教、性別、年代、何の差別もありません。確かに基礎疾患を持っている者へのリスクが高いようですが、若い方も感染しています。全世界規模の拡がりです。コロナウイルスだけではなく。今年もありました豪雨災害など、全世界で多発する自然災害、山火事、地震など、これも場所や人を選びません。**神様はこのような中で何を語っておられるのでしょうか。**そして、このような時代の中で、**教会は何が出来るのでしょうか？**

一番大事なことは、**執り成しの祈り**だと思います。それは、傷ついた人々の癒しのためというのは勿論ですが、このような世界にしてしまったことに対しては、自然破壊など（それは多くは先進国の貪欲の結果とも言えます）**神様の前に悔い改める**必要があるのだと思います。政治的な活動も大切だと思います。けれどももっと大切なのは、**神様と私たち、神様とこの世界の関係の回復**です。それこそ、教会が語り、祈らなければならないことでしょう。何故なら、この時代は、「私たちの国さえよければよい」という時代ではないのですから。「共に生きる」と言うことが今日ほど切実な時代はないと言えます。

この旧約聖書の出エジプト記も良く読むと、決してイスラエルだけの救いを語っている訳ではないのです。7章でモーセに語られた言葉はとても大事だと思います。4節以下—「**ファラオはあなたたちの言うことを聞かない。わたしはエジプトに手を下し、大いなる審判によって、わたしの部隊、わたしの民イスラエルの人々をエジプトの国から導き出す。わたしがエジプトに対して手を伸ばし、イスラエルの人々をその中から導き出すとき、エジプト人は、わたしが主であることを知るようになる。**」

—「**イスラエルの人々をその中から導き出すとき、エジプト人は、わたしが主であることを知るようになる。**」という言葉。神様の手によって、虐げられ差別されていたイスラエル人がその捕らわれから解放された時、実はエジプト人も、ただ一人の主なる神様を知るようになるのだと言うのです。これはとても不思議なことです。私は『十戒』の映画を見て、まるでエジプト王やその軍隊が悪の権化のように思い、白か黒か、善か悪か、救われる者と裁かれる者という構図でワクワクして観てしまっていました。本当の神様の御心は、**エジプト人も(つまり異邦人も)**

神様に立ち帰ることが出来るための神様による壮大なドラマがあったということなのだと思いました。しかも、面白いことに、「私は口が重いので」と尻込みするモーセを敢えて用いることによってこの奇跡をもたらした、ということです。神様は兄アロンを、補う存在として用いられましたけれども、このアロンも後で「金の子牛の偶像」を作ってしまうという大きな罪を犯します。モーセもアロンも弱い一介の人間にすみません。教会も又そうですね。“補い合っ”神様の働きが前進していくのです。その意味で、この物語の主演はあくまでも神様です。

#### [4] 出エジプトは、荒野の旅に行くあなたとイエス様の物語

イスラエルの人たちは、確かに長年苦しみました。「本当に神様、救って下さるのか」。疑っても無理はないと思います。けれども、一番苦しまれた方は神様ご自身なのではないでしょうか。苦しみから中々抜け出せない中、一気に決着をつける方が楽でしょう。積み木を崩すように、けれどもこのお方は、滅ぼすことよりも、神様を信じる民と、いや、むしろ不信仰に陥った民と言った方が正確ですが、苦難を共に歩むことを選ばれたのだと思います。この言葉を思い起こします。「神は言われた、『わたしは必ずあなたと共にいる。このことこそ、わたしがあなたを遣わすしるしである』」と (3:12)。

そして、私たちは知らされています。主イエス・キリストこそ、私たちの苦しみを全部知り、私たちの人生の道のりを共に歩んで下さるお方であると。十字架の上で「エリ、エリ、レマ、サバクタニ—わが神、わが神、何故私を見捨てられるのですか—」と叫ばれたこの方は、私たちの人生の底の底まで降って来られ、一緒に歩まれるお方です。そのお方だからこそ、**本当の出エジプト、罪からの解放、死からの甦り**を私たちにもたらして下さったのです。出エジプトは、昔の物語ではありません。あなたと荒野の旅をこれからも一緒に歩む、と宣言されたイエス様とあなたの物語なのです。お祈り致します。

神様、今この世界がこのように保たれているのは、ただあなたの憐みの故であると思います。あなたはこの世界というあなたの畑に良い麦と毒麦があっても、良い麦まで取り除かれないように、それを両方ともそのままにしておけると言われるお方です。この世界を、そして私たち罪人を愛しておられるからです。そして、その愛の証として、主イエスを私たちの救い主として送って下さいました。私たちはこのお方に頼りつつ、この世の旅路を歩んで行くことが出来ます。どうぞ、このコロナ・ウイルスが蔓延している世界の中であって、私たちがあなたに立ち帰り、真に隣人と共に生きることが出来ますよう、私たちに信仰と愛とをお与え下さい。主イエス・キリストのお名前によって祈ります。アーメン。